

夏休み中のSGH活動レポート①

SGH台湾フィールドワーク

夏休み中、8月1日から5日にかけて、SGHクラブ研究班・台湾チーム（7名、氏名は前号で紹介）が台湾の台北、台中でフィールドワークに取り組みました。テーマは、人間が生きていくためには欠かすことができない「水資源」についてです。フィールドワークの概要を報告します。

台北日本人学校の卒業生と合同チーム結成！

台北では、日本人学校卒業生と合同チームを組んで調査にあたりました。多様な背景の生徒どうしが協働することの素晴らしさを学ぶことができました。

最初に石川健吾君(1)が佐高の紹介を行い、篠崎凜花さん(2)、荻原佑介君(1)が佐野での意識調査結果をプレゼンしました。



台湾の先進的な雨水回収の取り組みを知る

台北では、雨水を回収して利用する取り組みがあちこちに見られました。

ある公園の敷地内では、回収・利用している雨水量を示す電光掲示板です。



地下水の観測井戸を見学！

台北市の水道水はダムの水です。地下水は災害時の非常用水源として重視されています、市内の地下水の水質・水位を、市内18カ所の観測井戸で常時モニタリングする体制が整っていました。

士東國小学校の敷地内にある観測井戸を見に行きました。日本での災害時の水確保策に思いを巡らせました。



台湾の下水処理施設に学ぶ！

台湾で最新式の・迪化下水処理場を見学し、下水処理に関する考え方が、台湾と日本とで大きく違うことを知りました。今後も課題研究を深め、佐野や日本、台湾の下水処理策への提言につなげたいと思います。

代表挨拶は岩永光喜君(2)が行いました。



台北駅で市民の”水”に関する意識調査を実施！

台北日本人学校の卒業生に加え、現地の日本人留学生・若手研究者と合同チームを組んでアンケート調査にあたりました。



- ・日本人と台湾人という、英語を母国語としない人どうしが英語でコミュニケーションできたのが良かった。(加川こもさん(1年)の感想より)

台湾の先進的な雨水回収システムを見学！



台北慈済医院が取り組んでいる雨水回収・利用の様子を見学しました。

これまで見学者はなく、世界初公開です！



雨水ろ過装置の説明を受けています



池の水や防火用水は、貯留している雨水を利用しています。



代表挨拶は篠崎さんが行いました

中央研究院・地球科学研究所で調査結果をプレゼン！

台湾の水環境について理解を深めるため、台湾政府直属のシンクタンク・中央研究院を訪ねました。

研究員の飯塚義之博士の講義を受けました。SGHクラブの調査研究を英語でプレゼンしました。

飯塚博士は佐高OBの地球科学者です。



研究者や留学生と質疑応答も行われました。

<質疑応答から>

飯塚菜摘さん(1)「台北市水道局は、水道水は飲用できると言っているし、実際水質は良好な数値が出ています。それなのになぜ台北市民は水道水を飲まないのですか？」

郭欽恵博士「よい質問だ。一つには水道水を飲まないというのがcustomになっているからだ。文化を変えるのは容易ではないのだ。」

台中に移動して921地震教育博物館を見学！

1999年9月21日に台湾中部で起きた921大地震を機に、被災した中学校跡地に国際的な地震教育の場として作られました。

全壊した中学校を取り壊さず、そのまま保存しています。



校庭を持ち上げた断層を、そのまま保存しています。



台中で“水”に関する意識調査を実施！

“水”に関する意識の地域差を探るため、台北で行った意識調査を台中でも実施しました。

台中では、中国語とは言語的な隔たりの大きい台湾語の話者に出会いました。

多言語社会・台湾を実感しました。



お知らせ

今回の台湾フィールドワークの研究成果を、旭城祭(9/3(土))で展示・発表します。旭城祭の当日は、SGHクラブの研究展示エリアに、是非おいでください！